

全日本ベスト塗装店・敢闘賞

ペイントショップ栄和代表取締役

伊藤文義さん



日本建築塗装職人の会が主催する「全日本ベスト塗装店2008」でこのほか、全国の優良塗装店、リフォーム店の中から敢闘賞に選ばれた。

「昔ながらの職人は、確かな腕を持っていて、口下手でアビリティも低い。悪徳業者による被害のない、安全安心な生活を提供するために、各職人がアビリティを高ければならない時代、特に住宅関係の工事、住民には分かりにくいものが多いので、どんな会社か、どんな仕事をしているかをまず理解してもらい、地元に対する強い愛情を持つ必要がある。だから情報を

「うれしい」と受賞の喜びを伝える。近年、住関連の悪徳業者が増加しており、地域でも被害事例を聞くことが多い。

「人に喜んでもらえるサービスを提供したい」との思いから、ペイントショップには職人と顧客との間口の役割を持たせている。

「塗装員の思いを熟っぽく語る姿からは、この道一筋の職人気質が感じられる。」「仕事が好きなだけ、好きなことには一生懸命にならなければなりません。」「地域に根差した取り組みには、人生を教わってくれた塗装で、地域に貢献したい、という思いが込められていて、塗装への愛情も同じく、地元に対する強い愛情を持っている。腕の持っている悪徳業者の

「発信していく」と語り、嫌な思いをしなくてもよりに近く、地元の人も信頼する。誰にも喜んでもらいたい。腕の良い職人が地元にいることを知っている、と語気を強める。

「受注現場では、職人たちがあややかな笑顔と明るいまわい、お客様に接し接している。」「従業員は、第一に笑顔とあいさつを心掛けている。職人に対して一般的に持たれている「無口でぶさぶさうう」なイメージとは違うので、職人は「よい職人たちも」と笑う。

「最高の成功は人に喜んでもらうこと、塗装で人々の笑顔、誇りにいきなり、今までのことをコソッとやっっていくのみと、謙遜しながら、なまなましを向ける。」

「塗装で地域に貢献した人」